

「第 25 回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：平成30年 2月16日（金） 10:00～12:00
- 2 場 所：横須賀市役所302会議室
- 3 出席者：高橋弘二座長、桐谷副座長、高久構成員、高橋直人構成員、高橋正明構成員、堀井構成員、米田構成員（計 7名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（松尾課長、鈴木主査、山中、鈴木）
- 5 傍聴者：1名

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 「横須賀かんきょうフォーラム2018」の開催結果について
 - (2) 「横須賀いいね★エコ活動賞」の実施結果について
 - (3) 平成29年度相互交流を活かした人材育成講座について
ー施設見学実施結果と座学実施についてー
- 3 議事
 - (1) 平成30年度環境教育・環境学習ネットワーク会議の事業について

◆報告 1 「横須賀かんきょうフォーラム 2018」の開催結果について

〔事務局からの説明〕

横須賀かんきょうフォーラムは、「環境活動団体や学校などの環境に関する取り組みを、発表・展示することにより、一般市民にも活動を広く周知し、各主体間の交流も深める」ことを目的として、今年度も平成 30 年 1 月 27 日（土）に開催した。

概要については、資料 1 をご覧いただきたい。

高橋座長

当日参加された方で感想はあるか。高橋直人構成員、いかがか。

高橋直人構成員

子どもたちの発表が良かった。地域のごみのポイ捨てをなくす活動を発表した小学校の「ごみを無くすことはできない。ごみを無くすことは不可能なことが分かった。」と言い切っていたところに、大人のモラルの低下を子どもたちから突き付けられた気がした。「自分たちはポイ捨てしない」と子どもたちが言っていたことに灯りが見えていると思った。

ステージイベントはアトラクショナルな内容で、階段式の劇場に合うようなもの考えた方が良かったのではないかと思った。内容が子ども向けだったせいか、大人がパラパラと帰り始めたので、あらかじめ広報で子ども対象と謳った方が良かったと思う。

いずれにしろ、子どもがどのように感じて、今後どう活かすか、今すぐに結果が出るものでもないの、効果が出ることを確信するためにも続けていくことが大切だと思う。

高橋座長

来場者数は昨年、一昨年と比べていかがか。

事務局（鈴木）

今年度（29年度）は263人、28年度は250人、27年度は340人であった。昨年度よりは多いが、一昨年（27年度）に比べると、入場者数は減ってきている。

高橋座長

ステージイベントは子どもたち中心で楽しく行っていたが、「皆で楽しくやって面白かった」で終わったのではないか。アトラクションで子どもたちは何を得たのか。わいわい楽しく行うのもいいが、何を伝えたいかという焦点がなかったと感じる。もう少し話を絞り、子どもたちに何かが残ると良かった。

また、毎年の課題だが参加者の殆どが発表団体に限られる。「他の学校の子どもたちがどのようなことをやっているのか」とのことで、パネル展示や発表をしない学校の子どもたちにも参加して欲しいと思う。

また、「かんきょうフォーラム」と言っても、大人は子どもの保護者が付いてくるだけで一般市民はどれだけ参加しているのか。「こどもかんきょうフォーラム」とのイメージがある。そちらの方が良いかと思うが、また話し合っていたきたい。

事務局（松尾課長）

今年度は昨年度の反省も踏まえ、昨年度は時間が11時から16時までだったが、お昼を挟むため帰られる方が多くいたことから、今年度は午後だけにし、コンパクトにした。

対象者については、そもそも「こどもかんきょうフォーラム」から始まったイベントだが、対象をどのようにしていくかは考えなければならないと思う。環境関連の方を対象とするのか、一般市民を対象にしていくのか、また、対象を大人の方も含めるのか、子どもたちに特化するのか、また、講演についても今回は海洋研究開発機構の茂木耕作研究員にお願いし、これまでの講演とは少し違ったアトラクション的なものを試験的に行った。先程、高橋構成員が言われたとおり、大人向けの内容ではなかったので、対象者と併せて検討していく必要があると思う。

資料1の当日アンケートの結果では、今後期待するアトラクションとの問いに「講義・セミナー」、「企業の取り組み・環境技術」とあるので、今後、環境企画課で内容を検討しながら、このフォーラムを続けていきたいと思っている。

また、ネットワーク会議の場などで意見をお聞きしたい。

桐谷構成員

先程、高橋座長から「発表する学校以外にも参加して欲しい」とあったが、例えば「発表！私たちのエコ活動」では4校の発表があったが、多くの申し込みの中から4校が選ばれたのか、または申し込みが4校だけだったのか。

事務局（鈴木主査）

学校の発表は、主に環境企画課が実施している「猿島自然観察会」や「エコ活動賞」に参加した学校や環境企画課と関わりがあった学校に活動の成果を発表していただきたいと案内している。

事務局（松尾課長）

広報紙にも載せて募集しているが、こちらからこうした学校に声掛けし、その結果、今年度は4校だけであった。

桐谷副座長

環境企画課でアプローチした学校が出ているとのことで、別の見方をすれば、もう少しやりようがあるのではないか。環境企画課から声を掛けるだけではなく、広報の仕方、各学校での環境活動を盛んにしていくような、もっていき方が考えられるのではないか。

事務局（松尾課長）

環境企画課で検討していきたい。

高橋直人構成員

かんきょうフォーラムが終わった後、子どもたちが作った展示物などを生涯学習センターの「まなびかんまつり」で展示し、その後も期間を設けて生涯学習センターまなびかんの廊下に展示し、啓発を行っている。今年は3,300人超の方が来られたので、ご覧になった方はたくさんいると思う。このような機会に合わせて来年度の参加を宣伝しても良いかと思う。

高橋座長

主催は教育委員会なのか。

高橋直人構成員

「まなびかんまつり」は横須賀市生涯学習財団が行っている。通常の掲示は生涯学習財団に依頼して行う。一般の団体も展示できるので、活動の発表の場として使うことも可能である。

高橋座長

かんきょうフォーラムで展示されたパネルなども生涯学習センターに展示されるのか。

高橋直人構成員

展示されていた。

◆報告2 「横須賀いいね★エコ活動賞」の実施結果について

高橋座長

では、次の「横須賀いいね★エコ活動賞」の実施結果について報告をお願いします。

[事務局からの説明]

「横須賀いいね★エコ活動賞」は、平成21年度から始めた「横須賀ECO大賞」を平成28年度の当会議での意見などを参考に見直しを行い、平成29年度から新たな表彰制度として実施した。詳細については資料2をご覧ください。

高橋座長

今年度、「一般の部」で津久井小学校が選定されたが、選考の発表が遅いため、「本当に選ばれたのか」との状態だった。かんきょうフォーラムのチラシに受賞した学校が掲載されるようにできないのか。また、チラシを見ると「発表！私たちのエコ活動」で発表した学校が「横須賀いいね★エコ活動賞」を受賞したようにも見える。「エコ活動」の発表と「エコ活動賞」との関係を考える必要があるかと思う。発表した学校が「エコ活動賞」をもらえるのか、「エコ活動賞」を受賞した学校が発表するのか。今回、津久井小学校の発表はなかったもので、どのような活動で賞をもらったのか文章で書いてある程度で活動を皆さんに紹介する時間がなかった。その辺りを再検討していただきたい。事務局としていかがか。

事務局（山中）

今年度に入ってから選考基準等の最後の調整に時間を要したため、予定以上にスケジュールが押してしまった。その結果、選考委員会の実施、表彰の決定が遅くなりチラシに掲載できなかったことは反省している。来年度以降は、スケジュールを前倒しし、表彰団体への発表の声掛けやチラシの掲載を実施していきたいと思っている。

事務局（松尾課長）

座長の言われた表彰団体と発表団体の関係も併せて検討していきたい。

高橋座長

発表団体の子どもたちや保護者はたくさん参加するので、発表の時間を長く取り、たくさんの方が発表できると良いかと思う。

事務局（松尾課長）

それについても、フォーラムの位置付け、内容、対象者を含めどのようにしていくか、その中で時間配分も考えていきたい。来年度の実施に当たりご意見を参考にしながら検討していきたい。

高橋直人構成員

「横須賀E C O大賞」から「横須賀いいね★エコ活動賞」に変わり反響はあったか。

事務局（山中）

今までの「横須賀E C O大賞」と比較してという意味では特に意見はなかった。新しく設けた「学校短期活動の部」に関して言うと、学校では1年で学年が変わってしまうため、その学年で1年間取り組んだことを「横須賀E C O大賞」では表彰できなかったが、制度が変わり1年間の活動でも賞がもらえることになったので、子どもたちの励みになったり、継続の意欲になるという点が、制度が変わり新しくなったところである。

事務局（鈴木主査）

広報よこすか2月号に受賞団体決定の記事を載せたところ、学校側から来年度の応募スケジュールの問い合わせがあった。市内の各学校が清掃活動や環境に関わる活動をしてい

と思うが、表彰制度が周知されればエントリー数が増える期待はある。

高橋座長

昨日、ビオトープの授業で小学校に行ってきたが、「エコ活動賞」の存在を先生は知らなかった。この活動で評価してもらえたら是非頑張りたいと話していた。まだ、全市的にPRが足りないと感じた。

昨日伺ったのは小学校3年生だったが、4年生に進級する際にクラス替えがあるらしい。クラス編成が変わるので、今行っている活動を引き続き行うのは難しいとのことだった。毎年クラス替えがあるのか。

高橋直人構成員

クラス替えしない学校もあります。

高橋正明構成員

学校から問い合わせあったようだが、例えば「学校短期活動の部」は必ず3校から4校は表彰すると決め、それ以外は佳作としてフロア展示し、表彰対象の一部にする枠組みを決める考え方もあるのではないか。そのようにすると、先程の表彰とフロア展示の関係も明確になるのではないか。表彰で賞状を渡し、佳作でそれなりの評価をする。必ず展示し、発表をする仕組みも一つの方法だと思う。

事務局（松尾課長）

発表と表彰の関係については、学校側の事情もあるかと思うので、検討していきたい。いずれにしても学校への周知をしっかりと行っていきたい。

◆報告3 平成29年度相互交流を活かした人材育成講座について —施設見学実施結果と座学実施について—

高橋座長

次に、平成29年度相互交流を活かした人材育成講座について報告をお願いしたい。

<施設見学実施結果>

〔事務局からの説明〕

平成29年度人材育成講座（施設見学）は、平成30年1月16日（火）につくば市の独立研究開発法人国立環境研究所を視察し、国立環境研究所の研究者から地球温暖化についての講義を聴き、資源循環・廃棄物研究センターの研究棟を見学した。詳細については資料3-1をご覧ください。

高橋座長

当日参加された構成員の方で、意見や説明の追加などはあるか。

高橋正明構成員

時間は短かったが、中身は非常に大事なことを聞いた。

結論として「脱炭素化は実現できるか」の質問に対し、「できる」と回答した参加メンバーが他の見学に来られる団体よりも多いのは意識が高いということと、達成するためには社会の大転換が起きる必要があるということで、今までの延長ではなく、パリ協定の実現により 100 年先のことまで考えなければいけないということであった。

ネットワーク会議に置き換えて考えると、今後の一つの大きなキーワードとして、パリ協定をどう実現していくのか、子どもたちにどのように伝えるか、子どもたちが生きる社会がパリ協定を実現していくために大事な時期となる。子どもたちにいかにこの辺りの進め方を伝えていくかということは、この会議の大きなキーワードとなると思う。

短い時間だったが、非常に有意義な見学、学習ができたと感じた。

高橋座長

パリ協定イコールこれからの二酸化炭素の削減、それを行うために我々はどうのように取り組めばいいのか。これまで先送りされてきたので、我々だけではなくこれからの子どもたちのことを考えたらどのようにしていくべきなのか、環境教育に結びついていく問題かと思う。往復の時間を考えると、現地の時間が短かった。

事務局（松尾課長）

片道 2 時間半をかけ実際の見学は 90 分だった。もう少し話を伺い施設を見学したかった。

今回は国立環境研究所が作った 90 分コースの見学だったが、帰り際に案内の方に「コースではなく、2～3 時間または 2 日間かけての見学はできるのか」と聞いたところ、「今までそのような質問はないが、検討はできると思う。」との返答だった。

今回初めて行ったが、また次回ということであれば、コースや時間などご意見があれば事務局で調整していきたい。

高橋座長

今回出掛けて行き有意義な話が聞けたが、話を聞くだけなら、つくば市まで行かずに聞けるので、せっかく行くのであれば、施設でどのようなことを行っているのか、例えば、パリ協定の今後の日本の二酸化炭素の予測を行っているとあったが、そのデータをどのように集めているのか、どんなことをやっているのか現場を見たい。今回、現場を見たのは廃棄物だったので、二酸化炭素に焦点を絞るのであれば、その解析や評価をしている研究室や実験室を見られたら良かった。話を聞くだけにあそこまで行く必要はないと思う。

<座学実施について>

高橋座長

では次の座学実施について、説明をお願いしたい。

[事務局からの説明]

前回（第 24 回）のネットワーク会議で、平成 29 年度活動者向け人材育成講座（座学）の実施について意見交換を行なった結果、別途、環境企画課で実施している『環境教育指導者派遣』事業で行う研修会と合同で実施することをご了解いただき、また、講師・日程

等の詳細については事務局にご一任いただいた。

日程及び講師については構成員のご意見を参考に資料3-2の案に記載のとおりである。

高橋座長

会場はどちらを考えているのか。

事務局（鈴木主査）

職員厚生会館の研修室で行う予定である。

高橋座長

講師からテーマ案を3ついただいているようだが、皆さんから希望はあるか。

高久構成員

タイトルだけでは中身が分かりにくいですが、個人的には体験談が面白いと思う。

高橋座長

体験談はその人しか持っていない。その貴重な体験が聞けるのは良い。

事務局（鈴木主査）

小学校や中学校で実際に子どもたちに話をされている方で、話術も併せて環境教育指導者派遣事業で子どもたちに話す方の参考になればと思う。

講師候補の市川氏とメールでの打合せの中で、講師依頼の目的を伝えたとこ、3つのテーマ案をいただいた。実際の学校での体験談を主に構成していただきたいと思っている。

高橋座長

3つの案の中では①が良いかと思うが、あまり拘らずお話いただければ良いと思う。所属は元海洋研究開発機構とあるが、現在は何をされているのか。

事務局（鈴木）

環境教育活動をされ、雑誌「R i k a T a n」（理科の探求）の執筆活動やブログなどでの情報発信、日本海洋学会の「海の出前授業」にも講師登録をされ、環境教育に熱心な方である。

高橋座長

横須賀在住のようなので、是非環境教育指導者として登録しテーマを挙げていただきたい。

事務局（鈴木主査）

ご自身のホームページで環境に関する情報を発信されている方である。本人のプロフィールなどもあらかじめ用意したいと思う。

高橋座長

顔合わせはまだ行っていないのか。

事務局（鈴木主査）

また、お会いしていない。

事務局（鈴木）

「R i k a T a n」は小学生にも分かる理科に興味がある方向けの雑誌のようである。

桐谷副座長

どなたが講座を受けられるのか。

事務局（鈴木主査）

ネットワーク会議の構成員、環境企画課で行っている環境教育指導者派遣事業に登録している環境教育指導者、環境教育補助指導者、広く環境活動に関わっている方に案内することを考えている。

桐谷副座長

そのような方々が参加しやすいような時間帯になっているのか。また、対象者は何人くらいなのか。せっかく市川氏に来ていただくのであれば、人が少ないのは寂しいので伺いたい。

事務局（鈴木主査）

例年、平日の市役所の開庁時間帯に開催している。例年同様の予定である。

高橋座長

今、決まっているのは3月15日の午後である。

事務局（松尾課長）

市川氏との調整の結果、この日程で進めている。

毎年、ネットワーク会議で座学を行っているが、せっくなので今回は環境教育指導者、環境教育補助指導者も含め、対象者約30人にご案内を送り出席いただきたいと思う。

全体で2時間を予定し、市川氏の話をして1時間程度、環境教育指導者の方の意見交換を1時間程度行う予定である。

◆議題1 平成30年度環境教育・環境学習ネットワーク会議の事業について

高橋座長

次に議題1について、説明をお願いしたい。

[事務局からの説明]

本日議論をしていただくこととして、「平成30年度環境教育・環境学習ネットワーク会

議の事業について」意見を交換したい。

1. ネットワーク会議の開催について

例年、6月、10月、2月の（年3回）開催をしているが、時期・回数などについて見直す必要はないか。

2. 平成30年度相互交流を活かした人材養成講座について

(1) 環境活動者向け講座について

- ①引き続き、対象は市民活動団体（個人含む）とし、活動者たちのスキルアップを目指す。
- ②講座は年2回を目標に開催する。「教育・学習の技術につながる研修（座学）」と、「環境に関する知識を深める研修（施設見学）」の2回構成とする。

以上のことから、講座内容については、

市域の環境教育の中心的な担い手である市民環境活動者への講座に重点を置き、市民環境活動団体、地域、事業者、学校、行政等が相互に専門知識を教えあう人材育成講座を開催する内容とする。詳細については資料4と別紙-1をご覧ください。

(2) 教員向け講座について

- ・横須賀市の環境に関する知識を教員に深めてもらい、授業で活用してもらうことを目的とし、30年度も開催を予定している。詳細については、資料4と別紙-1をご覧ください。

3 平成30年度「よこすかECO通信」について

平成30年度「よこすかECO通信」1面テーマについては資料4に記載したテーマを考えている。これまでのテーマ一覧については別紙-2をご覧ください。

高橋座長

今の説明に関して、意見や質問はあるか。

米田構成員

ネットワーク会議の開催時期だが、毎回出席率が違うので見直す必要があるのではないか。

事務局（鈴木主査）

予算上は年3回開催することとなっている。平成30年度も同じ回数の予定である。

出席率についてだが、開催月は固定し、1か月前に皆さんの予定を確認し、出席できる方が多い日に設定している。今日の会議も日程調整当時は出席率が高かったが、急な欠席が多くなってしまった。

時期に関しては、このまま固定でいいのか、または、事務局から皆さんにご意見を聞きたい案件がある際に開催する、もしくは、構成員の皆さんから発議があり、事務局に会議の召集を依頼していただき開催する考え方もあるかと思い、今回議題として挙げた。

高橋座長

では、1 ネットワーク会議の開催について、時期、回数などを見直す必要があるか、な

いかなの意見についていかがか。

高橋正明構成員

今まで、この回数で開催してきたが、見直す必要がある背景は何か。また、会議開催の目的は環境教育の計画や「横須賀いいね★エコ活動賞」の進め方などそれぞれテーマがあるはずである。そのテーマに合った会議をするのに今までこの時期と回数で十分だったのか、またはもう少しきめ細かくした方が良いのか、まずは開催の目的と回数を上手くリンクさせる考え方が良いと思う。時期を修正する希望や動きがあったのか。

高橋座長

事務局、いかがか。

事務局（鈴木主査）

例年、開催月がほぼ固定化されており、その都度、テーマを決めているのが現状である。

2年前の環境基本計画の見直しの際に、マスタープランの見直しがあったと思う。その時は大きなテーマがあったため年3回ではなく、それに応じてネットワーク会議を多く開催していた。

2月であれば前例に倣って、来年度の事業の内容の相談や確認作業になっていて、皆さんにお集まりいただく中で、事務局側から内容確認や報告が多くなっている会議の現状を考えると、定例の回数と開催月に拘る必要もないのではというのが趣旨である。

過去には「よこすかECO通信」の発行など事業の提案があったと把握しているが、環境教育に対する新たな企画・提案が、ネットワーク会議の中で知恵を拝借しながらできないか、例えば新規事業を立ち上げたいなどの事務局からの相談で、この会議として事業ができないか、また、構成員の方からのご提案で事業化することがあっても良いのではないかとも思っている。今までの6月、10月、2月の開催でも良いが、皆さんの率直な意見を伺いたい。

高橋座長

資料4は「平成30年度環境教育・環境学習ネットワーク会議の事業について」とあるが、これは事業計画についてだと思う。このネットワーク会議として平成30年度に何を行うか、いつ行うかのスケジュールを立て、これを皆さんに諮るにはいつネットワーク会議を開催する必要があるのか、あえて会議を開かなくても今はメールで済ませられることもあるのでそれを含めて一度環境教育・環境学習に関する事業計画表を作ってください、どの時点でネットワーク会議を開催するかを決めていけば良いと思うが、いかがか。

米田構成員

はい、それで良いと思う。

高橋座長

事業計画表を年度始めに配っていただき、修正するところがあれば修正し、問題がなければそのように進める。

皆さんが共通の認識をもって1年間進めていくことでよろしいか。

次に、2 平成 30 年度相互交流を活かした人材育成講座について意見はあるか。大きく分けて「座学」と「施設見学」があるが、「施設見学」は港湾空港技術研究所を予定している。

事務局（鈴木主査）

港湾空港技術研究所は平成 29 年度中に見学に行きたいと、平成 28 年度のネットワーク会議で話が出ていたが、今年度は国立環境研究所に変更したので、改めて提案するものである。

高橋座長

港湾空港技術研究所は多分野について研究しているので、施設見学は2つから3つのテーマに絞って行かなければならないと思う。

事務局（松尾課長）

現時点では港湾空港技術研究所を提案しているが、皆さんから他の希望があれば検討したい。

高橋座長

その他、意見はあるか。なければこの内容で人材育成講座を進めてもらいたい。

次に、3 平成 30 年度「よこすかE C O通信」について、これについてはテーマが殆ど決まっているがよろしいか。

事務局（鈴木）

一面のテーマ案は決まっているが、意見があればメールで構わないのでお願いしたい。

高橋座長

今はこのテーマで進めていただき、何かあった時には比較して検討すれば良いと思う。皆さんから希望はあるか。

高橋正明構成員

平成 30 年度はこのテーマで進めていただき、どこかで「パリ協定」について取り上げていただきたい。

高橋座長

「パリ協定」に関連した次のイベントはいつか。

高橋正明構成員

今年の 11 月か 12 月の C O P 24 でパリ協定の詳細が決まるはずである。再来年度の最初の特集で入れるのも時期として 1 つあると思う。

高橋座長

会議が開かれて方向性が決まった時点の方が良いと思う。

高橋正明構成員

それまでは事前予告を掲載していただくと皆さんの意識が高まると思う。

事務局（松尾課長）

今後の動きを見て、パリ協定についても検討したい。

米田構成員

E C O通信にどう生かすか難しいが重要な課題だと思う。

高橋座長

E C O通信には表紙以外の記事の内容もあるが、何かあるか。

行事予定について何かあれば、事務局に連絡して欲しい。

E C O通信は今までどおり事務局に進めていただき、事務局から問い合わせがあった際に対応してもらえればと思う。これで、報告事項、審議事項は終了する。

この会議は学校の先生が参加することから 15 時開始だったが、今回は会場の都合もあり 10 時開始であった。出席できない構成員の方が多かったがこれについてどのように思うか伺いたい。公開の会議のため、原則、市役所内で開庁時間内に開催しなければならないのか。

事務局（松尾課長）

会議室の関係もあるので、原則は開庁時間内となる。

高橋座長

学校の先生は授業をしながらこの会議に出席するとなると、勤務時間内は無理であろう。

実際、環境教育を現場で実践している方が学校の先生なので、できるだけ話を聞きたいと思う。17 時以降に掛かるのはどうなのか。

事務局（松尾課長）

会議室の関係があるが事前に行っておけば問題はないと思うが確認しておく。

高橋座長

環境教育派遣事業で学校に打合せに行くのは、大抵 16 時や 16 時半頃である。先生の立場ではその位の時間でないと動きづらいのではないか。

高橋直人構成員

学校の先生がいないとネットワークを組んで情報交換する意味が薄れてきてしまうと思う。学校の先生が全員出席することは難しいかと思うが、何人かは来ていただきたい。市民団体の方や学校の先生が出席できる時間帯が望ましい。

事務局（鈴木主査）

現場の学校の先生に毎回出席いただくのは難しいかと思う。なお、教育指導課から参画

いただいている構成員は、指導主事なので学校の先生である。

高橋座長

学校にいる先生と市役所にいる先生では違うのではないか。
指導主事の先生はいつも市役所にいない。

高橋直人構成員

指導主事の先生は学校に出張し、指導・助言を行うことが重要な仕事です。

事務局（松尾課長）

指導主事の先生も教育委員会に席はあるが、外に出る仕事が多いようで殆どいない。
開催時間については先生に確認し、また時間を決めていきたい。

高橋座長

事業者の方はいかがか。

桐谷副座長

16 時からありがたい。

事務局（松尾課長）

会議室の件などあるので、検討する。

米田構成員

市役所の職員は問題ないのか。

事務局（松尾課長）

職員に関しては問題ない。

◆その他 事務局から事務連絡

事務局（松尾課長）

[年度末に当たっての挨拶]

事務局（鈴木主査）

1 点目は、本日の議題について追加のご意見があれば 2 月 23 日（金）までに、事務局までご連絡をいただきたい。

2 点目は、3 月発行予定の「よこすか E C O 通信第 28 号」について、原稿を作成しているので、原稿ができ次第、確認をお願いしたい。また、掲載する講座やイベントの情報提供をお願いしたい。

高橋座長

会議を欠席の場合は、送付される資料についての意見を前もって事務局に提出することを
お願いしたい。

それでは、これをもって第25回ネットワーク会議を終了する。